

広報

# ただみ

5

2018 月号

No. 576

平成30年5月10日



## 今月の表紙

今月の表紙は、4月6日に行われた只見中学校の入学式で、新入生代表誓いの言葉を述べる鈴木莉子さんです。

誓いの言葉では「只見中学校の生徒という自覚を持ち、勉強や部活に励むことを誓います」と横山泰久校長に力強く宣言しました。

(関連記事:P6~7)

## <特集>

JR 只見線・新ラッピング列車運行開始 2~3

只見町地域づくりサロン事業…………… 4~5

町内の各学校で入学式…………… 6~7

《News&flash》…………… 8~9

《町の話題》……………10~13

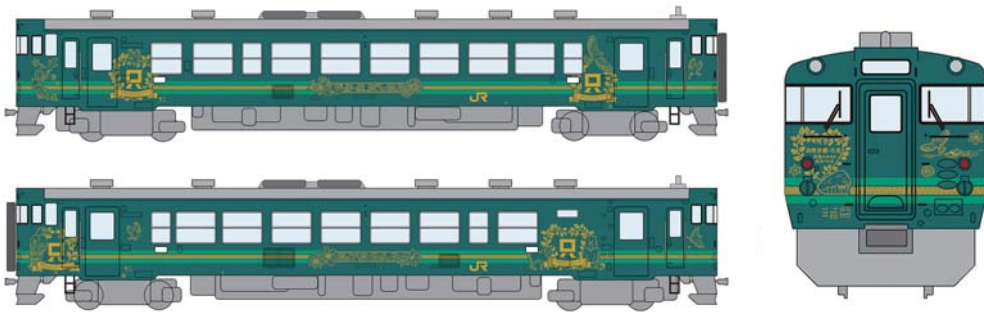


JR只見線の全線復旧と利用促進に向けて

# 新デザインとなったラッピング列車が運行開始!



▲三島町の第一只見川橋梁を走るラッピング列車



▲新デザインとなったラッピング列車

実行委員会はこれまでも、第1弾として2014年9月から2017年8月まで

このラッピング列車は、町や町内団体などで組織する「JR只見線利用促進実行委員会」がJR東日本と協力して企画したもので、一部区間で不通が続く只見線の利用客増加や只見ユネスコエコパークのPRを目的に行われています。

3月30日、新デザインとなったJR只見線の「ラッピング列車」が、JR只見線(会津若松駅から会津川口駅間)とJR磐越西線(会津若松駅から野沢駅間)の2路線で運行を開始しました。

## 新デザインとなった「只見線ラッピング列車」

の期間、新潟・福島豪雨からの復興とユネスコエコパーク登録を記念したラッピング列車「只見ユネスコエコパーク号」を企画しました。

そして、今回の「只見ユネスコエコパーク号」の第2弾は、只見川をイメージさせる青緑を基調とし、只見ユネスコエコパークに登録された自然豊かな只見町を表現するために、「イヌワシ」や「カタクリ」などのイラストを描いた車両になっています。さらに、車両の横のラインは人や縁を結ぶという思いが込められ、また「エンムスビ」の文字がデザインの中に隠されています。運行期間は2020年3月末ごろまでを予定しています。



▲残雪の中を走るラッピング列車



▲現在も小出駅～只見駅間を走る「縁結び列車」



▲会津若松駅ホームでグッズを配る委員会の皆さん



▲3月30日午後1時7分に会津若松駅を出発した一番列車

### 【表1】JR 只見線利活用計画に基づく只見町の主な事業

- ①車窓ガイドブック作成(只見町)
- ②駅周辺の環境整備(只見町)
- ③只見線ガイドが案内する鉄道ガイド(観光まちづくり協会)
- ④只見線応援事業への補助(只見町)
- ⑤只見線の利用啓発活動(只見町)
- ⑥只見線グッズの企画・販売(観光まちづくり協会)
- ⑦金山町と連携しての観光などの受入体制の強化(只見町)



▲今年度から不通区間の復旧工事が始まる現場(第六只見川橋梁・金山町)

#### 一番列車のホームで 利用に呼びかける

運行開始となった当日、「JR只見線利用促進実行委員会」は一番列車が出発する会津若松駅ホームで、利用客に只見線グッズを手渡し、ラッピング列車のPRと只見線の積極的な利用を呼びかけました。

只見線の法被を着た実行委員は、只見線応援キャラクター「キハちゃん」、「只見線に手をふろう!」の文字が書かれたステッカーやコースター、縁結びの願いが込められた鉛筆などを配布し、一番列車が会津川口駅に向けて発車すると、実行委員は乗客に向けて手を振り見送りしました。

また、会津川口駅では金山町のキャラクター「かぼまる」が金山町民の方々とともにラッピング列車を出迎え、パンフレットやグッズなどを乗客に手渡し、只見線をPRしました。

#### 県や会津の市町村など 連携して只見線利用促進

今年度より只見線の利用促進に向け、県と会津地方の市町村、観光団体などは、連携して企画列車の運行や景観整備など多くの事業が盛り込まれた「JR只見線利活用計画」に取り組む予定です。

この計画では、会津の自然や文化に触れることができる企画列車の運行や、子どもたちを対象に地域の教育資源を活用した学習列車の運行などが重点プログラムとして掲げられ、今年度より県と会津17市町村が一体となって只見線沿線の集客に向けて取り組みます。

また、計画の関連事業として只見町は表1のとおり、車窓ガイドブックや只見線グッズの企画・販売など様々な只見線利用促進事業を実施する予定で、2021年度中の全線復旧に向けて様々な取り組みが展開されます。

いつまでも自分らしく暮らすために

# 多くの地域が実践する「只見町地域づくりサロン事業」



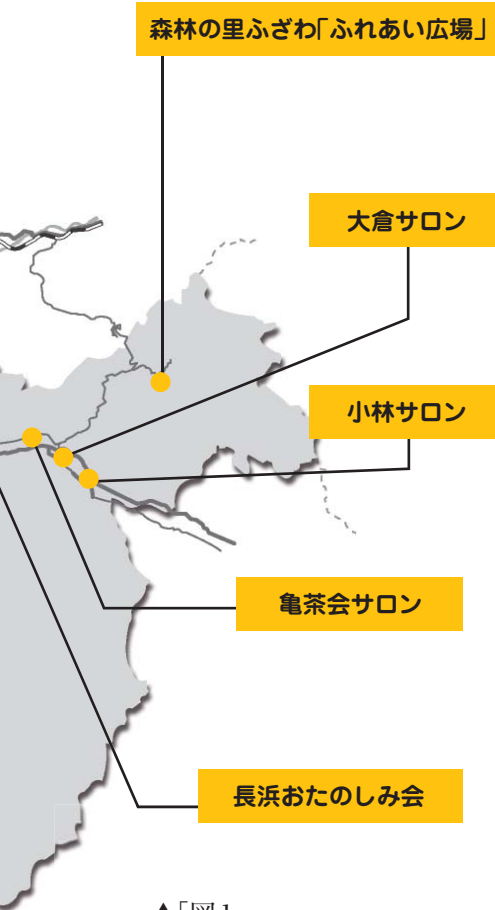
▲只見の自慢カルタを楽しむ森林の里ふさざわ「ふれあい広場」の皆さん



▲風船バレーをする小林サロンの皆さん



▲みんなで食事を楽しむ大倉サロンの皆さん



## ▲「図1」

只見町地域づくりサロン事業を活用して実践する町内10集落の位置図。現在は只見地区2、朝日地区5、明和地区3の集落が実践しています。

### 多くの地域が取り組む 只見地域づくりサロン

只見町では、町内に居住するおおむね65歳以上の高齢者と、地域住民（ボランティアなど）が身近な場所に気軽に集まり、ふれあいを通して生きがいづくり・仲間づくりの輪を広げ、地域の介護予防の拠点として機能する「地域づくりサロン事業」を支援しています。この事業は、平成28年度からスタートし2年が経過しました。現在では、「図1」とおり10集落がこの事業に取り組んでいます。事業を始めた当初は、約2ヶ月に1回の頻度で開催している地域がほとんどでしたが、現在では月1〜2回のペースで開催するようになりました。

サロンに関しては、この事業

が始まった平成28年度以前より独自に実施している集落もあり、小川地区では今年で1100回目のサロンを開催しました。同じく布沢地区も今年で11年目を迎え、5月の開催で130回目となります。

また、この事業がスタートした2年前からサロンを始めたという地域も多く、お茶を飲みながら世間話をしたり、お弁当を食べたり、カルタやゲームなどをしたりと地域の仲間とともに楽しい時間を過ごしています。

### 地域性豊かな取り組みで 楽しく実践するサロン

運動を行うことを主として実施されているサロンもありますが、懐かしい遊びやカラオ



▲皆勤賞などを称える只見おたっしやサロンの皆さん



▲踊りの練習をする只見スクウェアダンスの皆さん



▲開催100回を祝う小川いきいきサロンの皆さん

只見おたっしやサロン

只見スクウェアダンス

楢戸おたのしみ会

下福井いきいきサロン

小川いきいきサロン



- 只見町地域づくりサロン事業の支援内容 -

- 準備金／5万円
  - ・運動器具の購入など
- 活動費／1回1万円
  - ・お茶代など活動に対して使用できます
- 対象／5人以上の地域住民で構成する団体で、2カ月に1回以上実施できる団体。

— サロン事業を支援します —

今年度よりサロン事業の窓口が只見町社会福祉協議会となりました。また、サロン事業の活動をサポートする生活支援コーディネーターが設置され、鈴木光子さんが配属されましたので、サロン活動において不明な点や相談などある場合は、お気軽にご相談ください。

○問合せ先 只見町社会福祉協議会  
Tel: 0241 - 84 - 7006



▲生活支援コーディネーターの鈴木光子さん

ケなどを取り入れたり、季節の行事にあわせたイベントを行っているサロンもあります。地域により内容はさまざまですが、大勢の方々に参加いただき継続した活動が続けられるように工夫をしながら行われています。

参加者・運営者の声と町の支援について

参加者からは、「楽しいから休まないで来るようにしている」「大勢で食べるとおいしく感じる」など喜びの声が聞かれます。また、運営する方から

は、「準備など大変な面もあるが、参加者に喜んでもらえるので、「こちらも楽しい」「こういう活動が自分たちが参加する頃まで続いてほしい」などやりの声が聞かれます。

このように、サロンでは各集落で互いに見守り合い、声を掛け合いながら楽しく実践されています。サロンを始めてみたいという方には上記のような支援をしており、只見町社会福祉協議会が次のとおりサポートしていますのでお気軽にご相談ください。

# 1年生が新たな一歩!

## 町内の各学校で入学式



▲(写真/只見小学校)吉野徹校長から教科書を受け取る新入児童代表の鈴木真斗くん

町内の小・中・高等学校で入学式が行われ、平成30年度は町内3小学校で26名、只見中学校で27名、只見高等学校で39名の児童生徒が新たに学校生活をスタートしました。

入学式では、新入生が凛々しい姿で入場し、先生方や在校生保護者の方々などに拍手で迎えられる、式の中で校長先生から入学が許可されました。そして新入生の誓いの言葉では、学校生活での目標など決意を表明しました。

今年度入学された各学校の皆さんを写真で紹介いたします。



只見小学校  
新入児童 11名  
全校児童 57名



朝日小学校  
新入児童 7名  
全校児童 54名



明和小学校

新入児童 8名  
全校児童 68名



只見中学校

新入生 27名  
全校生 85名



只見高等学校

新入生39名(内、留学生12名)  
全校生 119名



新体制で地域の安全を守る

## 只見町消防団辞令交付式

4月2日、只見町消防団の辞令交付式が役場で行われ、目黒邦友さん（只見）、三瓶一也さん（寄岩）、梁取克昌さん（長浜）、五十嵐敦彦さん（坂田）に辞令が交付されました。はじめに消防団長の辞令交付が行われ、菅家町長が目黒さんに辞令書を手渡し、続いて副団長の辞令交付では、目黒団長から出席された三瓶さんと五十嵐さんに辞令書が手渡されました。

団長・副団長の任期は4月1日から4年間で、目黒団長は今回で2期目を迎え、副団長の三瓶さんは今回で3期目となり、梁取さんと五十嵐さんは初就任となります。



▲辞令書を受けた目黒団長(中)、三瓶副団長(中右)、五十嵐副団長(中左)

山村教育留学生第17期生

## 対面式で夢や抱負を発表

4月9日、全国から只見高校へ進学する山村教育留学生第17期生12名の対面式が只見振興センターで行われ、留学生や保護者、町、学校関係者など約50名が出席しました。

対面式では、渡部教育長が「自然豊かな只見町で自分を高める努力を続けてください」と挨拶し、留学生の自己紹介では「英語の先生になりたいので英語の勉強を頑張りたい」、「将来、世界の南郷トマトをつくりたい」などと学校生活の抱負や将来の夢などが話されました。最後に、菅家町長から留学生へ只見学ガイドブックなどが贈呈されました。



▲夢や抱負を発表した留学生12名

無事故を誓い町民生活を守る

## 有害鳥獣に対する部隊を編成

4月13日、只見町鳥獣被害対策実施隊及び只見町有害狩猟鳥獣捕獲隊の編成式が役場で行われ、各地区の隊員や関係者など約20名が参加しました。編成式では実施隊員辞令書と捕獲隊員登録証が交付され、隊長の深津和枝さん（大倉）が代表して菅家町長から受け取りました。町長が「町民の生活を守るために1年間よろしく願います」と挨拶し、深津さんが「隊員として法に則り、事故のないよう活動することを誓います」と無事故を宣誓しました。

今年度の隊員数は28名で、任期は4月1日から1年間です。



▲菅家町長に宣誓する深津和枝さん

滞納の無い町を目指して

## 只見町納税貯蓄組合連合会総会

4月16日、「平成30年度只見町納税貯蓄組合連合会総会」が只見振興センターで開かれ、各地区の組合長などが出席しました。

はじめに栗木豊会長が「納税組合数は年々減っているが守り続けることが重要です」と挨拶しました。続いて、町納税貯蓄組合連合会長の菅家トヨ子さんが10年以上にわたり尽力されたことが称えられ、栗木会長から表彰状などが手渡されました。菅家さんは「これからも完納推進に励んでいきたい」と謝辞を述べられました。



▲栗木会長から賞状を受け取る菅家トヨ子さん



町の自然を守る21名に委嘱

只見町野生動植物保護監視員

4月19日、只見町野生動植物保護監視員の委嘱状交付式が役場で行われ、保護監視員21名に委嘱状が交付されました。

監視員は「只見町の野生動植物を保護する条例」に基づき、野生動植物の不当な採取・捕獲などに対し注意喚起や指導、啓発活動などを行うもので、昨年からは設置されました。

交付式では、出席した保護監視員11名の方々に菅家町長が委嘱状を手渡し、「昨年度の成果としてライトトラップの数が減った。今年度は3名増の体制で只見の自然を守るようご協力をお願いしたい」と挨拶しました。



▲菅家町長(中央)から委嘱状を受け取った監視員の皆さん

伝承産品ブランド化支援事業

平成29年度の成果を報告

4月23日、平成29年度「自然首都・只見」伝承産品ブランド化支援事業の成果発表会と説明会が役場で行われ、事業者などが出席しました。この事業は、伝承産品の技術の伝承、品質・販売情報価値の向上を目指すもので、町が支援を行っています。

発表会では、町産材を活用した「ククサカップ」、山野で採れた果実やマナシで作った「ジャム」、もち米を利用した保存食「凍み餅」の3点について成果報告しました。今回の3点は伝承産品ブランドに認証され、これで全29点が町内のお店などで販売されます。



▲左から「凍み餅」「まるごと山なしジャム」「ククサカップ」

平成30年度の町の事業を報告

「町政報告会」開催

4月24日、町から各区長に今年度の事業内容や連絡事項などの報告を行う「町政報告会」が季の郷湯ら里で行われ、各区長と町当局約50名が出席しました。

報告会では、菅家町長が「新年度を迎え、新しい区長となった方々には町政へのご協力をお願いしたい。また、4月から渡部早苗教育長が就任し、橋本副町長とともに三役体制で頑張りたい」と挨拶しました。続いて、町の組織機構の改革や役場庁舎の暫定移転、担当課長による事業の説明を行い、各区長からは事業への質問が挙げられ、活発な意見交換が行われました。



▲活発な意見交換がなされた町政報告会

今年度の通り抜け事業を確認

八十里越道暫定的活用検討懇談会

4月25日、国道289号八十里越道路の完成を見据え、只見町と三条市による「第8回八十里越道路暫定的活用検討懇談会」が季の郷湯ら里で行われました。

はじめに行われた講演会では、長岡国道事務所の星野成彦事務所長が、本年3月31日時点での工事進捗率が約84%であることなど工事全体の説明を行い、只見町河井継之助記念館ガイドの五十嵐アツ子さんが「八十里越哀悲」と題して戊辰当時の様子を講話されました。続いて、今年度予定する通り抜け事業10案について協議され、内容について確認されました。



▲懇談会翌日の26日には戊辰150周年事業で設置した標柱巡りが行われました

## 新しく「ふたば組」が加わる 町内各保育所で入所式

4月5日、新しい入所児を迎えての入所式が各保育所で行われ、児童や保護者、地域の方々などが参加しました。只見保育所の入所式では入所児全員の紹介が行われ、先生から名前を呼ばれた児童たちは「はいっ！」と笑顔で返事をし、元気な姿を披露しました。今年度の児童数は、只見保育所25名、朝日保育所34名、明和保育所29名となり、今年4月から全保育所で1歳児の組「ふたば組」が新設され、さくら組(5歳児)からふたば組までの5組体制で保育業務を行っていきます。



▲入所児紹介で元気に返事をする只見保育所児童のみなさん

## 子どもから大人まで華麗な舞を披露！ 第17回春待ちチャリティー演芸会



▲寄付金を手渡す赤塚ミワさん(右)



▲華麗な踊りを披露する皆さん

4月8日、季の郷湯ら里を会場に「第17回春待ちチャリティー演芸会」が開かれ、桜の丘みらいの方々など約200名が来場しました。はじめに菅家町長が「長い歴史をもつこの演芸会では、これまで100万円を超える額を町の社会福祉に寄付されており、関係者の皆さまには感謝申し上げます」と挨拶し、続いて事務局の赤塚ミワさんが「社会福祉に役立ててください」と今年の演芸会の収益金117,736円を菅家町長へ手渡しました。演芸会では、町内外から参加した愛好者による35演目が披露され、その華麗な踊りに会場からは大きな拍手が贈られました。

## 自然と保全への取り組みを学ぶ 世界自然遺産・小笠原諸島に関する講演会

4月15日、世界自然遺産に登録されている東京都の小笠原諸島の自然と保全の取り組みをテーマとした講演会が只見振興センターで開かれ、約20名が参加しました。

この講演会は只見の自然に学ぶ会が主催したもので、小笠原諸島の生物の進化などを研究している首都大学東京助教の加藤英寿さんが講師を務めました。講演会では、独自の進化を遂げた生態系や貴重な自然環境を守る保全活動の事例などが説明されたほか、手つかずの自然が残る南硫黄島の調査映像が紹介され、只見ユネスコエコパーク推進にも活かせる内容となっており、参加者は自然と保全の在り方について理解を深めました。



▲小笠原諸島の自然や保全の取り組みについて学ぶ参加者の皆さん

## 祝！2名の方が満百歳で知事賀寿を贈呈 4/12只見在住の酒井ハルさん

只見字宮前在住の酒井ハルさんが4月12日に満百歳の誕生日を迎えられ、ご家族同席のもと知事賀寿贈呈式が同日、自宅で行われました。

贈呈式では、県から知事賀寿状と記念品、町からはお祝い金などが贈られ、長男の雅文さんが「母はご飯をよく食べるとも元気です。これからも元気に長生きしてもらいたい」と述べられました。

ハルさんは子ども4人、孫4人、ひ孫3人に恵まれ、1日3食しっかり食事をとり好き嫌いしないことが長寿の秘訣とのことでした。



▲花束を手にするハルさんご家族の皆さん

## 4/15叶津在住の長谷部ヒサエさん



▲花束を手にするヒサエさんご家族の皆さん

4月15日、叶津字下八木沢在住の長谷部ヒサエさんが百歳の誕生日を迎えられ、ご家族同席のもと知事賀寿贈呈式が同日、旅館みな川で行われました。

贈呈式では、県から知事賀寿状と記念品、町からはお祝い金などが贈られ、長男の正之さんが「母のために身に余るものをいただき、家族一同御礼申し上げます」と謝辞を述べられました。

ヒサエさんは子ども5人、孫7人、ひ孫7人に恵まれ、果物や餅が好物で3食しっかり食べることが長寿の秘訣とのことでした。

## 只見町ブナセンター ブナセンター講座

### 「野生動植物を守るために-生物多様性保全の科学と社会学」

3月31日、町の自然環境や野生動植物を守ることをテーマにしたブナセンター講座がただみ・ブナと川のミュージアムで開かれ、約20名が参加しました。講座では福島大学共生システム理工学類・教授の黒沢高秀氏を講師に迎え、県内外の自然環境が損なわれた事例やその原因などについて講話されました。自然環境を守るためには、守る対象の生態や特徴を理解し、その対象にあわせた方法をとることが大切であると話され、参加者は自然環境や野生動植物を守るための考え方について理解を深めました。



▲自然環境や野生動植物の保護について理解を深める参加者の皆さん

# 農業の広がり目指す！6次化商品や担い手育成の環境を整備！

## 合同会社ねっかのテイスティングルーム完成！

4月18日、地元農家などで作る焼酎製造販売会社「ねっか」が、梁取地区の醸造所に米焼酎ねっかの試飲スペース「テイスティングルーム」をオープンし、お披露目式が行われました。この施設は、同社が新たな観光拠点として町の魅力の発信や農業振興の活性化を図るために設置したもので、事務所として使っている古民家の一部を改装しました。室内はカウンターなどが設置され、この施設でしか販売しない限定焼酎などが並んでいます。お披露目式では代表社員の協坂齊弘さんが「只見町を訪れるきっかけとなれるよう、魅力を発信したい」と挨拶しました。営業は午前10時～午後4時で不定休。同社が製造している焼酎を1杯30ml、100～200円で試飲できます。



▲施設などを披露した焼酎製造販売会社ねっかの皆さん

## 通年雇用・担い手発掘を目指す加工・研修施設完成！



▲原材料の保管・商品の加工・パッケージなど作業が行える加工施設

南郷トマトや米などをつくる大倉地区の「有さんべ農園」の新事務所が、4月7日に同地内に完成しました。この施設は事務所機能のほか、加工施設や研修施設などが設けられています。加工施設は、同社で生産した米を使って加工する「切り餅」の商品づくりのほか、従業員の冬の業務として通年雇用につなげる狙いがあります。また、研修施設は大学生などの研修生を受け入れるために宿泊機能を整備し、農業研修を通して農業の担い手の育成を図る狙いがあります。さんべ農園の三瓶やえさんは「今後、郷土食などの加工も考えており、仕事の広がりを目指していきたい」と話しました。

## 保冷・加工・販売・研修施設を備えた多機能型施設完成！

4月20日、南郷トマトや米などをつくる㈱ライズサプールの新事務所が上福井地区に完成し、地域の方々などを招いたお披露目式が行われました。この事務所は、米などの保冷庫や加工施設・研修施設のほか、売店も設けられています。加工施設では、同社で生産した米を使った「凍み餅」の商品づくりを行い、売店などで販売します。また、売店には自社商品以外にも町内の地場産品が並ぶ予定で、同地域の観光拠点を目指します。お披露目式では、同社代表の目黒大輔さんが「多くの皆さまのご協力により本日を迎えることができた」と挨拶し、お祝いの福餅まきが行われました。



▲新事務所の前で餅まきを行う関係者の皆さん

## 只見おもしろ学検定

### 新国守さん(只見)が上級合格者第1号!

3月10日、朝日振興センターで行われた「只見おもしろ学検定」において、只見地区の新国守さんが初めての上級合格者となりました。只見おもしろ学検定は「只見おもしろ学ガイドブック改訂版」から出題されますが、上級は只見町史からも出題され、範囲が広がります。新国さんは、今回2回目の挑戦で合格され、3月15日に増田教育次長から合格証を受け取り、「多くの方々に受験してほしい」と話されました。また、栃木県那須町の方が初級に合格され、町外合格者第1号となりました。



▲増田次長(左)から合格証を受け取る新国さん(右)

## ふるさと交流都市・千葉県柏市と交流深める

### 2018チューリップフェスティバル



▲町の特産品や観光をPRした参加者の皆さん

4月14日、只見町とふるさと交流都市を締結する千葉県柏市の「2018チューリップフェスティバル」があけぼの山農業公園で開催され、町や町内事業者などが参加しました。

多くの方々が訪れたイベントでは、そばやきもちや味付きマトンケバブ、米焼酎ねっかやどぶろくなど地場産品を販売したほか、ステージなどで町の観光PRを行いました。ふるさと交流都市柏市で町の魅力を発信し、交流を深めました。



ふうま  
目黒 楓真くん  
(小林)



うた  
目黒 詩さん  
(小林)



しんじ  
赤塚 慎志くん  
(福井)

虫歯の  
ない子



(4月24日  
3歳児検診)

## 4月から新しい看護師さんが着任しました!

4月1日から4ヶ月間、朝日診療所で勤務していただく会津中央病院看護師の穴澤静さんです。穴澤さんは、中学生のときに看護師を目指したいと思い、会津若松市内の仁愛高等学校に入学し、そして中央病院の看護師となりました。中央病院では、循環器科と救命救急センターをそれぞれ1年ずつ経験され、今回朝日診療所に着任しました。診療所では訪問看護などを経験し、多くの地域医療を学びたいそうです。「診療所に来たら気軽に声をかけてください」と話す穴澤さんをどうぞよろしく願いいたします。



穴澤 静さん  
(出身/磐梯町)

## 広報ただみ診療所

朝日診療所

所長 若山 隆



### 「着任のご挨拶」

今回は、朝日診療所に4月から新しく赴任された先生方よりご挨拶していただきます。

こんにちは、はじめまして。鶴山保典と申します。今年4月より朝日診療所に赴任しました。まだまだ若輩ですが、精一杯頑張りますので、皆さまどうぞよろしく願いいたします。自分はお隣の栃木県宇都宮市から来ました。そう、餃子の消費量で有名なあの町です。ご多分にもれず、自分も餃子が好きで週に1回ほど無性に餃子を食したくなる発作がでてきます。自分は栃木県の他に、1回目の大学と就職のため東京都、そして医学部と研修医生活のため愛知県名古屋市に住んできましたが、いずれもほとんど雪の降らない地域でした。今回、福島県の只見町に住むのも、雪が深い地域に住むのも初めてです。名古屋は1年間で1日、唯一雪が積もった日に足を滑らせ腰を打ちつけ、数日間動けなかった過去をもつので、今から雪の日が不安でもあります。もう4月

になるからと油断したまま只見町に足を踏み入れたので、初日から雪の多さに驚きました。初めてのことでありますが、地名や方言など只見町のことをちょっとずつ勉強していこうと思っています。只見町や皆さんのことをもっとよく知りたいので、いろいろ教えていただけたらうれしいです。診察室の中だけではなく、待合室や町の中などでもぜひ気軽に声をかけてくださいね。

只見町の皆さま、お久しぶりです。2015年4月～2016年3月まで朝日診療所に勤務していた山内健士朗です。昨年は相馬市の公立相馬総合病院に赴任し、今年4月より朝日診療所に戻って参りました。また皆さまと只見町で過ごせることを大変嬉しく思います。医師として皆さまの健康にお役に立つべく精進することはもちろん、只見町民として積極的に地域活動にも参加していきたいと考えております。改めてよろしく願いいたします。

## 地域おこし協力隊として 只見町山村振興協力隊

vol.42

ふじぬま こうへい  
藤沼 航平



### 「雪を楽しむ」

地域おこし協力隊として只見町に移り住み約1年が経ちました。私の仕事は、森林の分校ふざわを拠点とした企画や運営補助などを行ってまいりました。この1年間で分校の「山村のくらし体験施設」としてのコンセプト作りと基礎作りがなせたと思っています。

また、仕事だけにこだわらず、幅広い活動にも参加させていただきました。癒しの森や恵みの森のガイド、山開

き・雪まつりスタッフ、アウトドアやインバウンドに関する研修、明和地区や布沢集落の各行事(運動会、公民館祭り、観音様祭りやおんべなど)、布沢集落を中心とした宇都宮大学生の地域活動など、まだまだここに書ききれないほどの多くの活動がありました。

受動的な私ではありますが、こういった多くの活動に巻き込まれ、参加できる場所は只見町の魅力の1つだと感じます。次の1年間「只見を楽しむ」を忘れずに活動をしてまいりたいと思います。

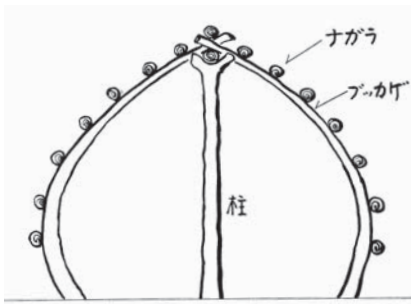
## 只見 ぜんめえ物語 ①

### — ぜんまい小屋 —

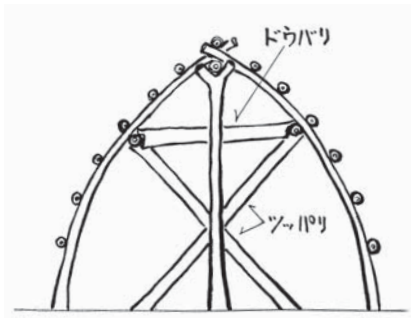
▼今月号からは、只見町のぜんまいについての聞き書きです。

▼執筆者は元福島県立博物館学芸員の鈴木克彦さんです。平成十七年までは朝日中学校で社会科学教諭として勤務されていたこともあり、また、『只見町 川と人の物語』の調査・執筆も担当され、現在は昭和村にお住まいです。

▼六回の連載です。ご期待ください。



▲(図1)ぜんまい小屋のコヤガラ組断面図



▲(図2)トメ小屋にされたぜんまい小屋

只見でぜんまいといえば、田子倉、入叶津、蒲生が真っ先に思い浮かびます。そこで今回は昭和七年生まれで、昨年(平成二十九年)八五歳で亡くなられた馬場正毅さん(蒲生)から亡くなる前年の七月にうかがった話をもとに構成してみました。

蒲生でぜんまい採りをする人たちの多くは、それぞれ家族ごとに毎年同じ山で二週間から三週間ほど(五月中旬から六月上旬)太いぜんまい

が生えそろう真奈川の奥山にぜんまい小屋を建て、現地で採集から干す作業まですべてをこなしていました。これを泊まり山といっていました。そこで人々の住居兼作業場となつたのが、ぜんまい小屋で現地に生えている雑木を利用した△型の小屋でした。

ぜんまい小屋の多くは、生活水が得やすい沢の近くに構えるのが一般的です。そして、場所が決まれば、次に小屋の中央部となるところに「炙りホド」と呼ばれる竈作りから作業は始まります。まず、竈となる所の土を二尺ほど掘り下げたら、周りに高さ二尺ほどの石垣を作ります。その上に太い丸太を載せて転がらないよう壁土で詰め物を施します。

「炙りホド」ができたら、次は「コヤガラケミ(小屋柄組)」です(図1)。小屋の骨組みとなる材料を互いに結わえつづける仕事です。まず、先が岐になった木を柱として地面に穴

を掘って立てます。岐の部分に棟木を載せ、そこに、古民家の扱首に当たる「ブツカゲ」と呼ばれる材を渡します。ブツカゲは直径四寸程度のナラヤクリ、ときにはブナなどの根曲がりを用います。根曲がりの材を使うことでトマトハウスのように小屋の内部空間を広く取ることが出来ます。次にブツカゲの外側にナガラ(一般家屋の母屋に当たる)と呼ばれる細木を渡せば、小屋柄組は完了です。山から材料となる木を切り出すところから組み上げるまで、慣れた人でも二人で二日ほどは要したといえます。

最後は屋根葺きですが古くは茅葺き屋根が一般的でした。まず、ブツカゲとナガラの全面に柴を敷いて結わえます。これは茅が小屋の内側に飛び出さないようにするためです。その後、下から上へと茅を立て込みます。茅は、短いものから細いものまで何でも利用します。蒲生の奥山の多くは岩山であるため、茅には恵まれていません。このため、秋には方々から茅を刈り集め小屋を設営する場所の近くに囲って来春に備えなければなりません。また、茅がほんのわずかしか手に入らないような山に小屋を建てるときには、使用する

を掘って立てます。岐の部分に棟木を載せ、そこに、古民家の扱首に当たる「ブツカゲ」と呼ばれる材を渡します。ブツカゲは直径四寸程度のナラヤクリ、ときにはブナなどの根曲がりを用います。根曲がりの材を使うことでトマトハウスのように小屋の内部空間を広く取ることが出来ます。次にブツカゲの外側にナガラ(一般家屋の母屋に当たる)と呼ばれる細木を渡せば、小屋柄組は完了です。山から材料となる木を切り出すところから組み上げるまで、慣れた人でも二人で二日ほどは要したといえます。

る茅が少なくて済むように、屋根の下地に柴木を厚く並べたりすることもありました。

秋になるとぜんまい小屋の多くは解体し、部材は翌春に備えて比較的安全な場所に囲って置きます。小屋を毎秋解体する理由は、雪の重みでつぶされるといってもありますが、一番の理由はエイ(表層雪崩)の危険性が高かったためです。

一方、エイの心配がない所に建てたぜんまい小屋の場合、雪で小屋がつぶれないよう、秋に「トメゴヤ(留小屋)」を施さなければなりません。トメとは雪の重みに耐えられよう小屋を冬の間だけ補強し、冬期間もその場に留め置くという意味です。村人は「俺、今日天気良がつたがら、トメ小屋しに山さ行つてきた」というようにトメという言葉を使います。トメ小屋の作業とは、丸太でドウバリ(胴梁)とツツパリを施すことです(図2)。

そして、春先固雪になる頃、村人たちの日常会話の中に「小屋場に土撒いできた」「小屋場を掘り開けできた」「小屋場開けに行つてきた」などという声を耳にするようになって今年もぜんまいの季節が迫ってきたことを実感します。



# 町民文芸

## 只見短歌会

三月詠草

大塚栄一

指導

遠く望む雪の浅草背景にゆびそ柳は青み初めたり

馬場 八智

残雪の多き庭地に日差し受く福寿草はや二輪咲き初む

関谷登美子

八十六歳の従姉のケーキの蠟燭に「8」と「6」とを逆に立てやる

新国由紀子

豪雪の只見の地にも池の辺の氷柱の滴春を告ぐるや

渡部ゆき子

あれこれと惑ふ思ひを振り払ひ心任せに生きてゆかむか

小倉キミ子

幼子が昔はなどと言ふを聞き笑ひこらへて相づちをうつ

目黒 富子

人生の先輩らより様々な励ましの言葉に胸こみ上ぐる

飯島小百合

残雪の上に散らばる野菜くず周りを囲むは鴉の群れか

渡部ヨリ子

施設より帰ればいまだ雪残る裏の鉢棚に夕茜差す

新国 洋子

(出詠順)

## 只見俳句会

四月例会

目黒十一

指導

地下水を汲む山毛櫨の根に雪解くる  
狐火と見たり春田のどじょう捕り

幸生

画像より手術告げらる余寒かな  
露の香の指をしばらく楽しめり

恒夫

木漏れ陽や一人ベンチで漱石読む  
春風のごとく颯爽と新入生

信

ねんごろに包み納めり陶雛  
掌にしばらく在りぬぼたん雪

礼

おかえりと言う母の声桜もち  
仕事着をジクザクと縫う春日かな

都

鯉幟り雨に打たれて泳がれず  
四本が頬寄せ合って福寿草

一穂

春の昼話題一つで長咄  
彼岸過妣の白ひの黄楊のくし

味代子

春耕や亡母使いし鍬を手に  
塀越えに今ぞとばかり白木蓮

修一

おかえりと声かく朝や燕来る  
あの桜咲けば播く種母の言

弘子

百寿祝ぐ謡朗々初桜  
一升餅背によちよちとよろよろと

吉見





# 今月のお知らせ

## 電話番号

総務課	
総務係 財政係	☎82-5210
地域創生課	
創生企画係 広報広聴係	
ユネスコエコパーク推進係	☎82-5220
町民生活課	
税務係	☎82-5110
町民係	☎82-5100
保健福祉課	
保健係	☎84-7005
福祉係	☎84-7010
農林建設課	
農林係	☎82-5230
建設係	☎82-5270
観光商工課	
観光係 商工係	☎82-5240
会計室	☎82-5120
議会事務局	☎82-5300
農業委員会	☎82-5230
教育委員会	☎82-5320
学校給食センター	☎84-7180
只見保育所	☎82-2219
朝日保育所	☎84-2038
明和保育所	☎86-2249
朝日診療所	☎84-2221
(歯科)	☎84-2612
こぶし苑	☎84-2101
只見振興センター	☎82-2141
朝日振興センター	☎84-2111
明和振興センター	☎86-2111

## 試験

**只見町職員**  
(大学卒業程度・資格免許職)  
採用候補者試験を行います

平成31年度只見町職員(大学卒業程度及び資格免許職)採用候補者試験を次のとおり行います。

●試験職種及び採用予定人員

- ・行政職 若干名
- ・土木職 若干名
- ・建築職 若干名
- ・看護師 若干名

●受験資格(学歴不問)

【行政職・土木職・建築職】  
昭和58年4月2日から

平成9年4月1日までに  
生まれた者

【資格免許職・看護師】

平成元年4月2日以降に生まれた者で、看護師の免許を有するか平成31年3月末までに取得見込みの者

### 試験の方法

行政職・土木職・建築職の教養試験は大学卒業程度、看護師は高校卒業程度で次により行います。

### 第1次試験

教養試験、専門試験(行政職・土木職・建築職)、事務適性検査、看護師適性検査(看護師)、一般性格診断検査、職場適応性検査

### 第2次試験(1次試験合格者)

小論文、面接による試験

### 第1次試験の日時、場所

▽日時 7月22日(日)

午前9時受付〜午後4時50分

### ▽場所

福島大学(福島市金谷川二番地)

### 発表

役場掲示板に合格者番号を掲示するほか、本人に通知します。

### 採用

合格者は採用候補者名簿に登載され成績順に町長が採用者を

決定します(この合格の有効期間は1年間です)。

### ●受験手続及び受付期間

▽申込用紙の請求

申込用紙は役場総務課及び朝日、明和振興センターで交付します。

### ▽申込方法

申込用紙は役場総務課に提出してください。

※郵送による場合は返信用封筒を同封すること。

### ▽受付期間

5月24日から6月22日まで

※郵送による場合は、6月20日までの消印のあるものに限ります。

※一般行政職・高校卒業程度の募集については、7月上旬を予定しております。

### ●問合せ先

▽只見町役場総務課 総務係  
☎0241-825210

## お知らせ

### 多重債務・貸金業に関する相談窓口のお知らせ

財務省福島財務事務所では、返済しきれないほどの借金を抱え、お悩みの方々の相談に応じています。借金の状況をお聞きし、必要に応じて弁護士・司法書士などの専門家に引き継ぎを行います。秘密厳守、相談無料です。お気軽にご相談ください。

また、国や県の登録を受けずに貸金業を営む、いわゆる「ヤミ金融」業者には十分ご注意ください。ご利用されている貸金業者の登録状況に関する問い合わせや不正に利用されている預貯金口座に関する相談も受け付けています。

### ●相談窓口

財務省福島財務事務所 理財課  
(福島市松木町13-2)

## 税 今月の納期

5月25日までに

納めましょう

- 軽自動車税(全期)
- 農集排使用料(5月分)

### ●受付時間

- 月〜金曜日(祝日など除く)
- ①午前8時30分〜正午
- ②午後1時〜午後4時30分

### ●電話番号

☎0241-5330064

財務省福島財務事務所より「出前講座」のご案内

財務省福島財務事務所では、地域のコミュニティ活動や各種団体の会合などにお伺いし、「おこづかい帳をつけよう(小学生向け)」、「日本の財政を考えよう(一般向け)」、「金融犯罪(なりすまし詐欺等)被害防止」など様々なテーマで出前講座を行っております。

費用は一切かかりませんので、お気軽にお問い合わせください。

### ●問合せ先

財務省福島財務事務所 総務課  
☎0241-5350301

お気軽にご相談ください！  
「福島さわやか  
行政相談キャンペーン」

総務省では、只見町を担当する行政相談委員として、渡部あき子さんを委嘱しております。

行政相談委員は、総務大臣が委嘱するもので、地域住民の皆さんから国の行政全般に関するご意見・ご要望を受け付け、皆さんと関係行政機関などとの間に立って、その解決を促進するよう相談に応じています。

また、5月1日(火)～31日(木)までの1カ月間は「福島さわやか行政相談キャンペーン」期間です。相談は無料で秘密は守られますのでお気軽にご相談ください。

▼只見町の行政相談委員



渡部 あき子さん  
只見町大字福井字久保田204-2  
☎84-2252

## 厚生労働省福島労働局より 全ての中小企業事業主の皆さまへお知らせ

4月から県内の全労働基準監督署に「労働時間相談・支援コーナー」が設置されました。事業主の皆さまから、①時間外・休日労働協定(36協定)を含む労働時間制度全般、②長時間労働の削減に向けた取組方法、③労働時間の削減などに取り組む際に利用可能な助成金制度のご案内など「労働時間」に関するあらゆるご相談を受け付けています。

詳しくは、お近くの労働基準監督署へお問い合わせください。

●問合せ先 厚生労働省福島労働局監督課  
Tel.024-536-4602



## 町長スケジュール (4月分)

- 2日 教育長辞令交付式、  
教育長着任式並びに町職員辞令交付式、定例庁議、  
只見町建設業協会来庁、只見高等学校校長着任あいさつ  
町小中学校教職員着任あいさつ、  
只見町消防団団長・副団長辞令交付式
- 3日 広域消防本部消防長就任あいさつ、  
ユネスコエコパーク連絡調整会議  
南会津地方振興局長着任あいさつ
- 5日 阿賀川河川事務所長来庁
- 6日 只見小学校入学式、只見中学校入学式
- 8日 春待ちチャリティ演芸会
- 9日 只見高等学校入学式、山村教育留学生対面式
- 10日 会津総合開発協議会役員会、  
あいづふるさと市町村圏協議会役員会(会津若松市)
- 11日 南会津建設事務所長来庁
- 12日 百歳高齢者賀寿贈呈式
- 13日 鳥獣被害対策実施隊・有害狩猟鳥獣捕獲隊編成式
- 15日 百歳高齢者賀寿贈呈式

- 16日 只見町納税貯蓄組合連合会総会、  
町内小・中・高等学校転入教職員歓迎会
- 17日 只見町議会全員協議会、  
只見町職員スキルアップ研修会、臨時庁議
- 18日 福島県水道協会理事会(福島市)
- 19日 只見町野生動植物保護監視員委嘱状交付式、  
南会津地方環境衛生組合事務局長来庁
- 20日 育児休業職員辞令交付式、只見町議会4月会議
- 23日 女将の会、  
「自然首都・只見」伝承産品ブランド化支援事業成果発表会、  
南会津建設事務所長来庁
- 24日 町政報告会
- 25日 八十里越道路暫定的活用検討懇談会
- 27日 (一社)只見町観光まちづくり協会定時社員総会、  
只見町赤十字奉仕団総会、福島県総務部政策監来庁
- 28日 国道252号六十里越雪わり街道「只見一魚沼間」再開  
通記念式典(魚沼市)

# 町民の消息

(3月26日～4月25日届出分)敬称略

## ■おくやみ申し上げます

長谷川 健次朗	80歳	只 見
目 黒 ミヨコ	96歳	長 浜
五十嵐 チカエ	90歳	長 浜
山 本 ナツ江	92歳	蒲 生
藤 田 新之助	75歳	只 見
原 田 リエ子	76歳	黒 谷
若 林 富 古	90歳	十 島



※「町民の消息」欄に掲載を希望されない方は、届出のときにその旨をお伝えください。

# 人のうごき

平成30年4月1日現在

人 口	4, 236	(-52)
男	2, 072	(-26)
女	2, 164	(-26)
世帯数	1, 830	(-24)
高齢化率	45.85%	

※高齢化率とは、65歳以上の人が人口に占める割合です。

転入	28	転出	79	出生	4	死亡	5
----	----	----	----	----	---	----	---

▽雪解けが一気に進んだ4月。只見町では桜が咲き、新緑も始まり、只見の自然が彩り豊かになってきました。遅れてやってくる只見町の春を見に訪れる他県ナンバーの車やバイクも徐々に増え、賑やかになってきました。更に明るい話題として、新潟県魚沼市と只見町を結ぶ国道252号六十里越雪わり街道が4月27日(金)正午に冬期通行止め解除となり、ゴールデンウィーク前の再開通となりました。これから益々賑やかになっていくことを期待します。

(三瓶)

## あとがき

- 1、ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう
- 1、互いに助け合い親切をつくり楽しい町をつくりましょう
- 1、産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう
- 1、教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう
- 1、きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう

## 町民憲章

生涯学習サポーター  
五十嵐愛

只見振興センター  
図書室 ☎82-2141

# おすすめ新着図書

## ★泣けるいきもの図鑑



今泉忠明/監修(学研プラス)

「たった3時間食べないだけでうえ死にしてしまう」モグラや、口の中で育てている卵の中に別の魚の卵が混じっていることに気付かず「自分の子どもを全て食べられたうえ、敵の子どもを育てる」カワズメなど、生き物120種のかawaiiそうでいじらしい生態がたくさん紹介されています。さらに、絶滅してしまったいきもの記録や「忠犬ハチ公」など感動の実話も10話収録。思わず笑ってしまうものから感動させられるものまで、あらゆる「泣けるいきもの」が詰まった一冊です。

## ★危険予測シリーズ どこがあぶないのかな? ⑦水べ



渡邊正樹/監修(少年写真新聞社)

子どもたちの危険予測能力が求められる場面に加え、周りの人の安全も考える場面が、わかりやすく絵本で紹介してあります。シリーズ⑦では河川、池、プール、海、中洲などの「水べ」をピックアップしています。

最初の見開きで事故が起きそうな場面、次で事故が起きてしまった場面、次の2ページで起こさないためのポイントを伝える、という構成になっています。日常にありがちなシーンが写真とイラストを使った6ページで展開され、子どもたちの興味をひきつつ危険を予測する能力を育てられるので、お子さんへの読み聞かせにもピッタリの一冊となっています。

★その他にも図書コーナーにはたくさんの本が置いてあります。リクエストも随時受付けていますので、ぜひご利用ください。

## 端午の節句に笹巻き



▲笹にもち米を詰める様子



▲完成した笹巻き

端午の節句の時に作られる代表的な料理の一つに笹巻きがあります。笹巻きは様々な地方でつくられていますが、形や中身、結び方などが異なります。只見の笹巻きは、三角の形をしており、中身がもち米のみであることが特徴です。使われる笹は、主に多雪地帯のブナ林に広く分布するチマキザサです。これらの笹は葉が大きい点の特徴です。取った笹は乾燥させて保管しておき、笹巻きを作るときに水で戻して使います。7月半ば（土用の頃）が笹巻きに適した笹がとれるため、裏山などで採取します。縛るためのイワスゲも同様に夏の時期に採集し乾燥させて保管しておくそうです。作り方は、笹でもち米を巻きスゲなどで縛りお湯で一時間ほど煮て作ります。出来上がったものは、きなこや味噌をつけて食べます。只見では、農作業の合間のこびり（間食）としても親しまれています。笹の葉の抗菌作用によって中身が傷みにくく、また、笹の葉で包むことによってもち米に香りに移り、笹の香りを楽しむことができます。笹は昔から人々の生活に役立ってきた優れた素材といえます。

詳しくは、  
只見町ブナセンター  
までお問い合わせ  
ください

### 企画展

### 「守りたい！只見の野生動植物

—只見町の野生動植物を保護する条例—

期 間：6月25日(月)まで

場 所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

## 坂田集落に咲き揃った水仙ロード

春の訪れを知らせてくれる水仙（スイセン）の花が、坂田集落に咲き揃いました。この水仙は、小林集落から坂田集落に入った県道沿いにあり、黄色に染まった水仙ロードが訪れる人々を魅了します。

雪解けが進んだ只見町では、これから新緑のシーズンを迎えます。

